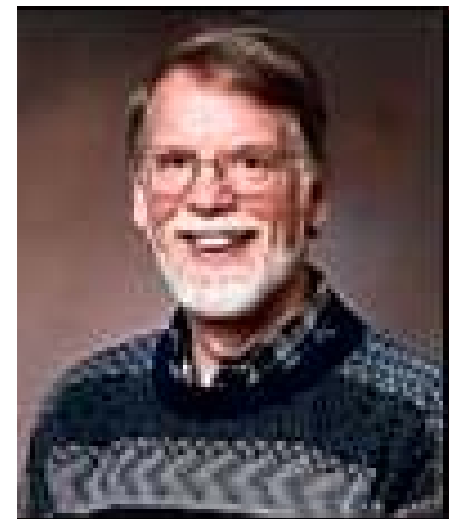


昼ゼミ 話題・・・小池孝良

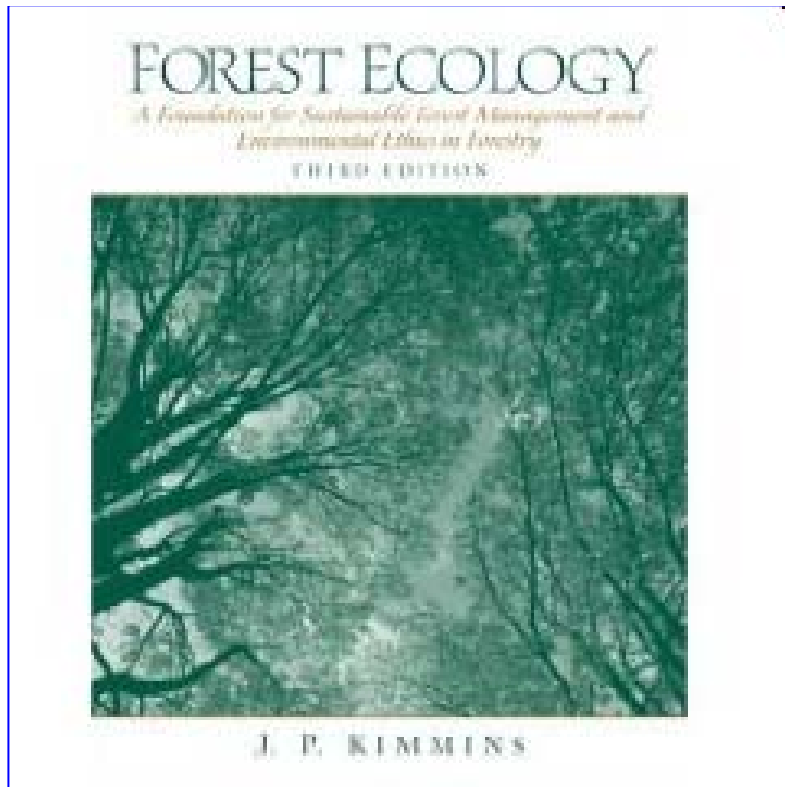
Kimmins, J.P. (1999)

Biodiversity, Beauty and the “Beast” **are** beautiful forests sustainable, **are** sustainable forests beautiful, and **is** “small” always ecologically desirable? Forestry Chronicle 75: 955-960.

Emeritus Prof. P.J. Kimmins
UBC, Canada



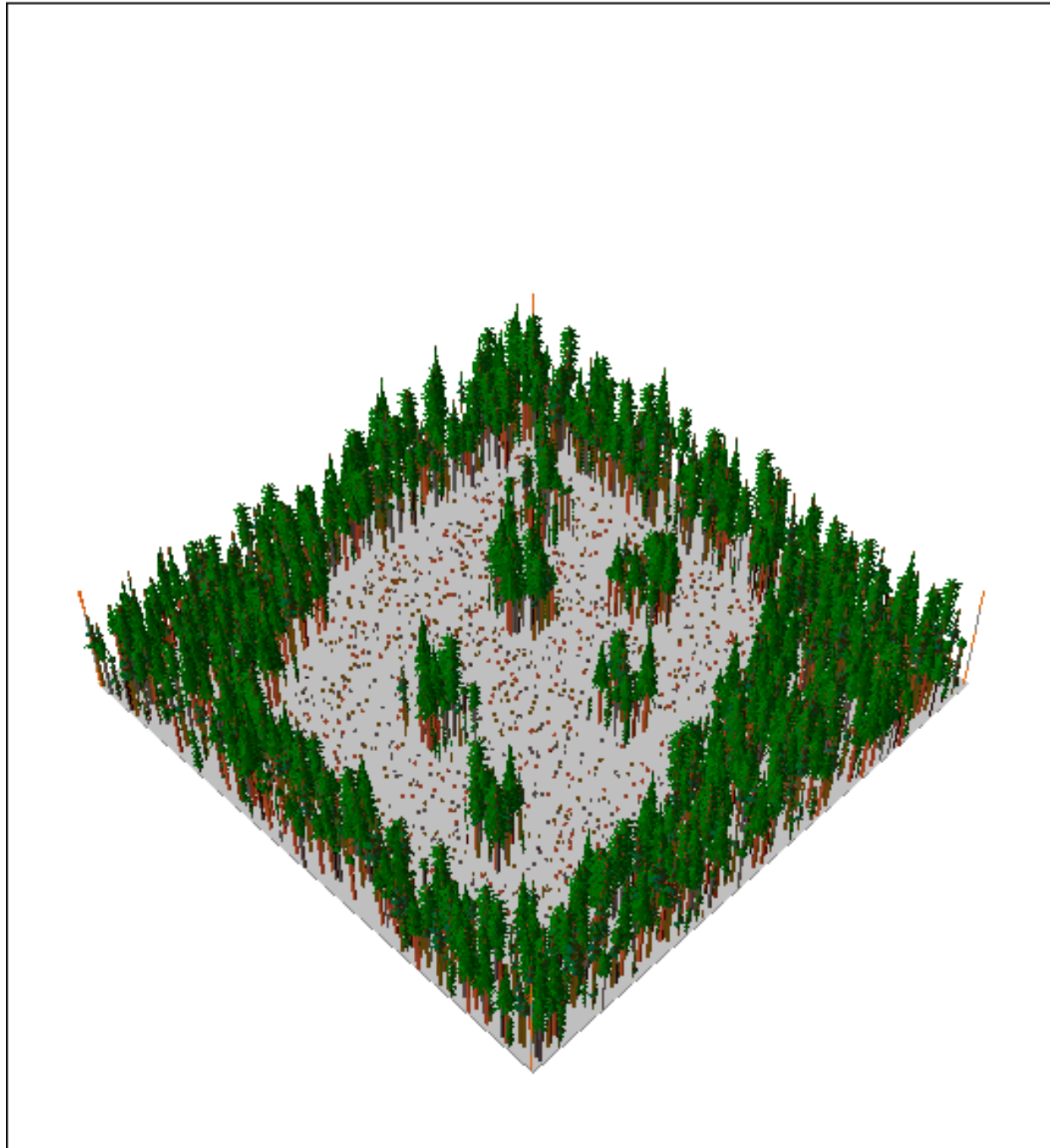
森林美学の目標
＝恒続林思想 (A.Möllerの提案)



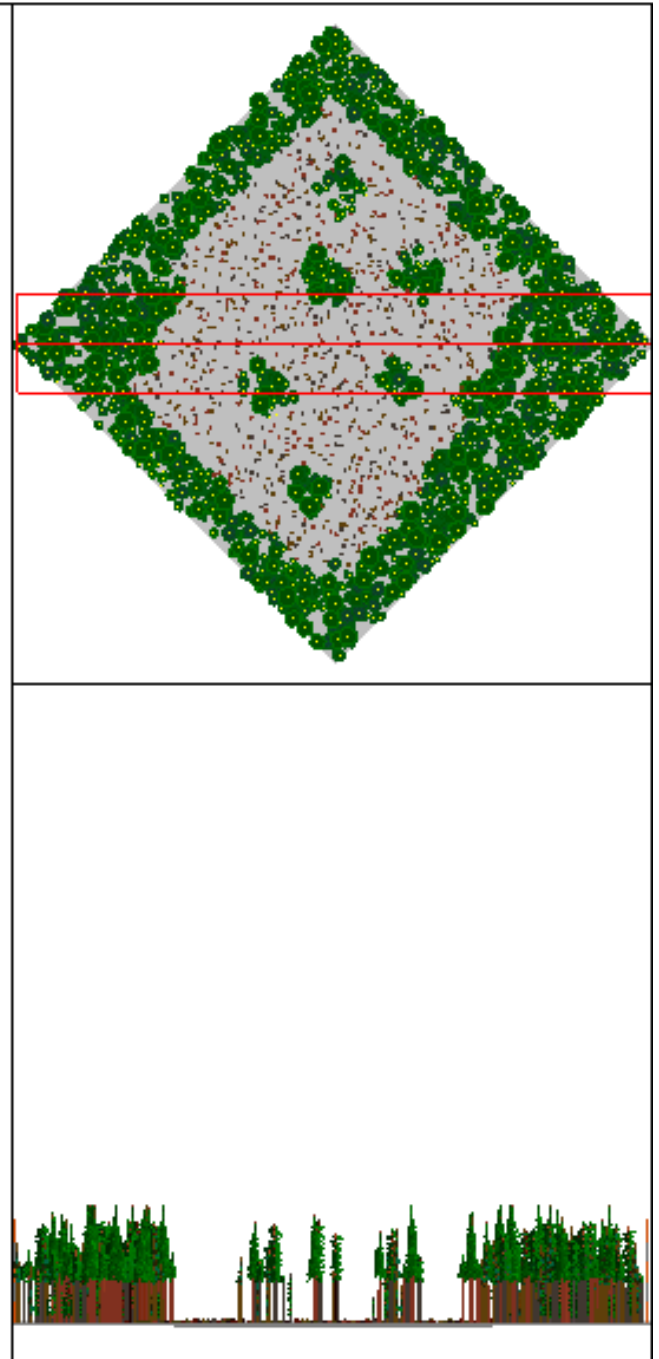
Kimmins J.P., Scoullar, K.A., and Feller, M.C. 1982.
FORCYTE—a computer simulation approach to evaluating the effects of whole tree harvesting on nutrient budgets and future forest productivity.

Faculty of Forestry, University of British Columbia,
Vancouver, B.C.

Stand Visualization System



MASS_partial3.SVS

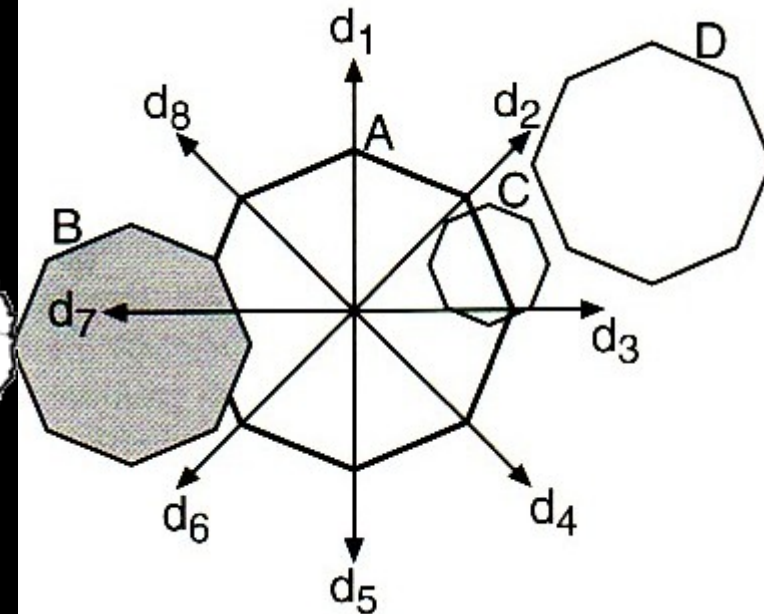
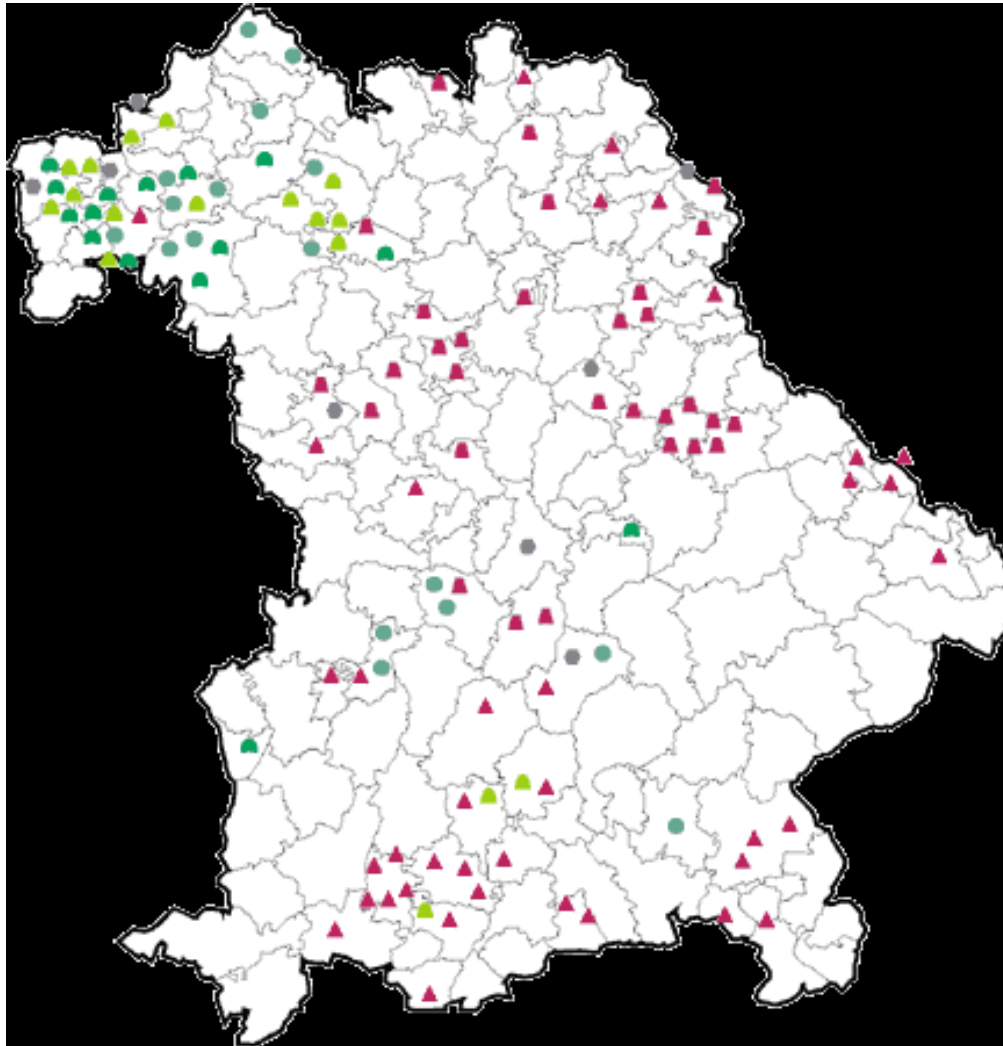


モデルによる森林美の創造



Prof. Dr.
Hans Pretzsch

Lehrstuhl für Waldwachstumskunde



長期モニタリングによる
Data base (SILVA)

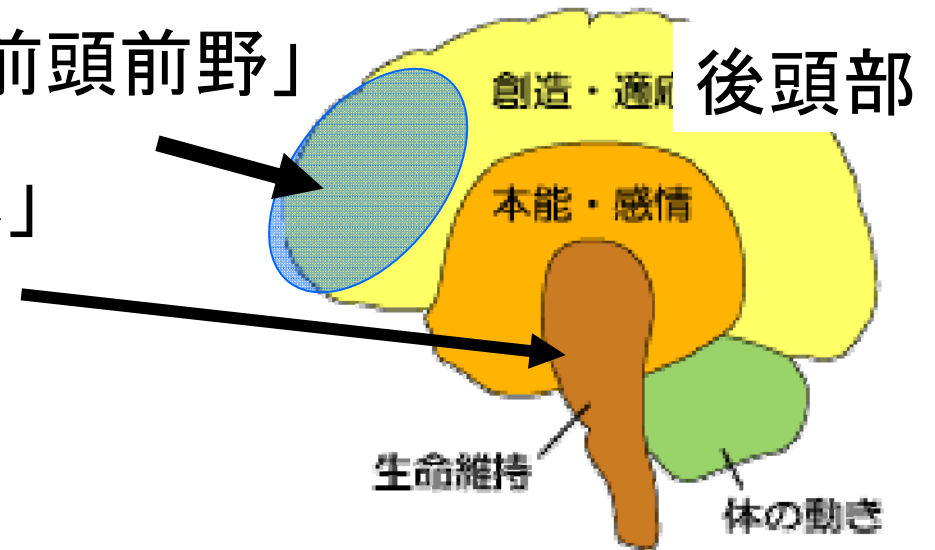
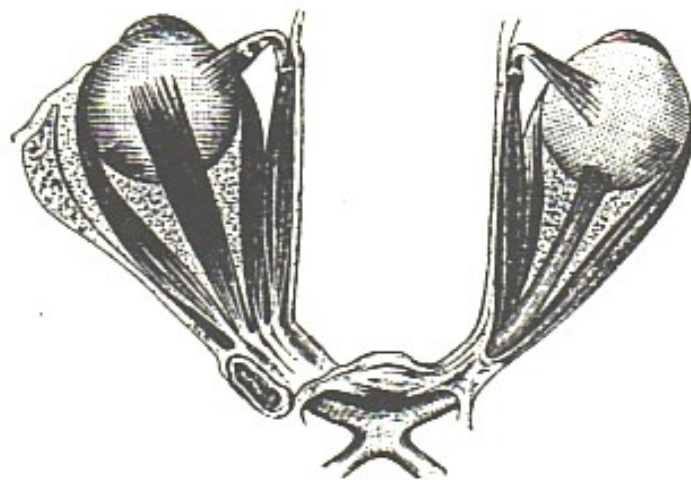
2. 伝統講義「森林美学」との関連の紹介

動物としての本能を信じる

1. 感情を抑制(制御)する「前頭前野」

2. 感情を生み出す「扁桃体」

視床下部



郡山市どんぐり保育園 HP

森林美学

村山醸造(1916)北海道有用樹木ノ美的價値ヲ論ス. 卒論

Biodiversity, Beauty and the “Beast”

Are beautiful forests sustainable,
are sustainable forests
beautiful, and
is “small” always
ecologically desirable?

Prof. Kimmins, J.P.



This allegorical (寓話) story tells us that
we cannot always judge things by how they look.

論文の構成

1. はじめに
2. Biodiversity(生物多様性)
3. Sustainability(持続性)
4. Beauty and the Beast(いわば、美女と野獣)
5. Aesthetics, Sustainability and Biodiversity
(審美、持続性 そして生物多様性)
6. The "Beast" in Forestry (林業における邪悪さ)
The beast=教徒[邪悪さ]
7. Developing a land ethic: respect for nature
(土地利用の倫理: 自然を敬うこと)

美しい風景などは、私どもが心の拠り所としてきた
プシュケー (psyche) であり、その美の崩れる様は
見たくない。

ギリシア神話に登場する人間の娘の名。
この言葉はギリシア語で**心・魂**を意味する。

蝮と告げられた夫は、実は愛を司るエロースであった。
プシュケーの裏切りで天に戻り失恋で塞ぎ込み、
そのため地上から愛が消え失せてしまっていた。

生物多様性は、地球の30億年に渡る進化の産物である。この意味は、変化に対する自然の“補償の方法”であり、将来の変化には、次の世代の人間が将来に順応できるための豊かな遺産である。

我々は、数千年にわたって自然の多様性を壊してきたが、しかし、今、我々は知識を持ち、知性を持つことによってこの歴史的な「破壊」を阻止することが出来るだろう。

As a species, humans are highly visual.
種として、人間は視覚に依存している

Beauty for humans depends closely on individual.
人間にとっての「美」は、個人に密接に依存している

There is a “balance of nature”, that nature seeks and needs an equilibrium condition, and that **change in this condition is bad.**

自然のバランスがあるということは、自然が求め、必要とする(動的)平衡があり、また、この状態が(多様性維持には)悪いということもある。



宮崎県
綾 研究林



生態系での攪乱と変化
→自然(多様性)への
脅威

What may be judged to be “beautiful”

生態学者達や生物多様性の専門家によって維持される持続的な森林管理や財産管理が十分になされていて、少なくともある時、“美しい”と思う林分は、一般の人々にとっては、醜いと思うかも知れない。

いくつかの森林では、外見上、生態学的に、また、持続的な面で条件がよく整っている、という例は多い。

しかし、資源と環境の関連を信頼できる基準において変える時の「よい反応」は、謂わば挑戦でもある。

この醜い野獣は、実はハンサムな王子様であった。

物事は、概観だけではわからない、ということである

The “beast” in forestry 醜い林業は、しばしば飽くことを知らない搾取を行ってきており、その結果は美しくはない。

持続的な森林資源の収穫とされる方法でも、一時、醜い様相を呈するものである。



しかし、最近では、
仮装舞踏会の
美しいマントに隠された
本当に醜い林業もある。



この背景には、我々の適切な自然への理解が無いこと
さらに、自然への尊敬や畏敬の念が薄れていることが
ある。

それは、good stewardship (他者のための管理, 運営)
sustainability (持続性)

に関する共通の決まりが無いことも、拍車をかける。

ある時期の要求に応える“美”は、しかし、長い期間で見るときには、必ずしも、優れた美を示しているとは限らない。

従って、我々は、どの時期にどのように“良い”林業と“悪い”林業を区別することのできる目に見える基準を見つける必要がある。

美しい景観管理をしている場所が持続的であるということが言える時を見つけなければならない。

生物多様性の(ための)生態学と次世代へ渡すべきものを倫理的に理解せねばならない。

→今の審美的感覚と世代内の責務を果たすことの
バランスの取り方

持続的森林管理を行うためには、
森林の生態学的・生物学的多様性と我々が護るべき
価値ある内容に関して、知見を得るために、
世界中でどのくらいの数の森林を管理するか、という
ことが重要になるであろう。

1. 我々は決して画一的な森林政策と管理方法のみを
採用すべきではない。
2. 我々は重要な審美的思考と持続すべき価値のある
生態学の間バランスを取るべきである。

結論

1) 森林資源は今より、より状態で我々の大切な後生世代へ渡すものである。

2) 同時に、森林資源は我々の世代が必要とし、満足の行く物である。

3) 私たちが、より倫理的に行動することを学ぶによって、正しい行いができる

- 残念ながら、林業における倫理的な行動とは、現状から見て定義づけられる。

- “正しいことを行う”とは、我々の短期的、中期的長期的な活動の結果を含む。

- 美しい林分と景観は必ずしも持続的とは限らない。
- 持続的に経営された林分や景観が常に美しいとは限らない。
- 小規模撈乱が生物多様性と生産性を維持するとは限らない
- 持続的な森林管理とは、私どもが望むことによって行われるのではなく、自然への畏敬に依るべきだ。

